

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいりんく		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多角的な支援プログラムの提供(学習・集団・年齢別)	学習支援、集団レクリエーション、年代別活動を、生徒一人ひとりの特性やライフステージに合わせて組み合わせ、学校や家庭とは異なる多角的な支援を提供しています。	学習面での成功体験を積み重ね、将来の自立に向けた予習型の支援を取り入れることで、自信を深め、社会での適応力を高めていけるよう支援します。
2	地域資源を活用した実践的な社会性の向上	公園での集団活動や公共施設の利用を通じ、地域社会との接点を重視しています。買い物練習や公共交通機関の利用実践を通じ、第三者との適切なコミュニケーションスキル(敬語やマナー)の習得を支援しています。	外出時や社会活動中での振る舞いについて、事後振り返りや具体的なフィードバックを行い、自ら状況を判断して行動する「自己決定」の力を育成していきます。
3	専門性の向上を目指した職員研修	思春期の特性や放課後等デイサービスのガイドラインに基づく最新知識をオンライン研修で共有し、質の高いサービス提供に努めています。個々の状況に応じた適切な関わりができる体制を整えています。	専門知識の習得だけでなく、現場での実践力(OJT)と運動させ、就労支援や将来の自立を見据えた長期的な視点での支援スキルを高める研修を推進していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校活動と連動した情報発信の頻度向上	長時間利用の中で様々な活動を行っていますが、学校や家庭との連携において、活動内容の共有が月単位の報告に留まってしまうことが課題です。	定期報告に加え、学校での出来事に関連した活動やイベント時の様子を随時更新します。事業所での「頑張り」がより伝わる発信体制を整えます。
2	異年齢・異学年が共生する空間の最適化	小学生から高校生まで幅広い年齢層が利用するため、学習に集中したい児童と、活動的に過ごしたい児童の空間の切り分け(ゾーニング)に工夫を要しています。	学習スペースと自由遊びスペースの分離を徹底し、限られたスペースの中でも各学年のニーズに応じた「居心地の良い居場所」を整備します。
3	地域・家庭と連携した防災訓練の周知	2ヶ月に1回、様々なケースを想定した訓練を行っていますが、アンケート結果から、具体的な避難先や訓練の意図が保護者様に浸透しきれていないことが判明しました。	実施した訓練内容や児童の迅速な対応の様子を、Webサイトや書面で詳細にフィードバックします。地域社会とも連携した、より実践的な防災体制を構築します。